

創立 15 周年によせて

今後も連携し、国内・世界への情報発信を



加藤 碩

ステンレス協会常務理事

社団法人ステンレス構造建築協会創立 15 周年おめでとうございます。

貴協会は、建築構造材としてのステンレス鋼の需要を喚起することを目的として、平成 5 年に当初、任意団体「ステンレス構造建築協会」として発足し、その 1 年後に社団法人ステンレス構造建築協会として、建設大臣から設立認可されたのは、周知の通りですが、それから早くも 15 年の歳月が流れたわけであります。

平成 15 年に貴協会は、社団法人日本鋼構造協会の事務所がある四谷へ移転されましたが、設立時からの 10 年間、鉄鋼会館の同じ事務所内で仕事をしていたわけで、設立母体でありました当協会としては感慨深いものがあります。

これまで貴協会とは、同じステンレス鋼の需要拡大を目的とするため、さまざまなチャンネルを通じて情報交換をし、相互に連携を保ちながら現在に至っております。貴協会が、主にステンレス鋼を用いた「建築部門」に特化した調査研究、技術評価等を通じてステンレス鋼の普及活動を行ってきたのに対して、当協会はステンレス鋼全般（各種統計の整備、環境対応、広報活動など）の、あるいは基礎的な普及・啓蒙活動および ISSF を中心とする海外との窓口と重点をおいた活動を行ってきたように思います。

今後も基本的な活動分野については、大きな変化はないものと思いますが、貴協会では本年 4 月に社団法人日本鋼構造協会と統合して新たな一歩を踏み出すのを機会に、「土木」分野にも力を注がれると聞いております。

近年、重要性が増してきている「地球環境問題」への対応についても、ステンレス業界の一つの提案が、多様なステンレス鋼の適材適所への採用による「ライフサイクルコスト」の削減であり、この観点からの素材選択が、今後ますます重要視されることは間違いのないことと思います。それには、われわれステンレス鋼に携わる関係者たちが、ステンレス鋼の特徴・性能を如何にして世に知らしめるかが、鍵であると思われれます。

その意味において、貴協会と当協会が強く連携して活動し、国内のみならず世界に情報を発信することが、今まで以上に重要になってくるのではないかと思います。